

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	A-141	17-023 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b>		
Vulnerability for Alcohol Use Disorder and Rate of Alcohol Consumption. アルコール使用障害の脆弱性とアルコール消費率		
<b>執筆者</b>		
Gowin JL, Sloan ME, Stangl BL, Vatsalya V, Ramchandani VA.		
<b>掲載誌</b>		
Am J Psychiatry. 2017 Nov 1;174(11):1094-1101.DOI: 10.1176/appi.ajp.2017.16101180		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール乱用、ビン酒、アルコール依存症の家族歴、衝動性、性差		28774194
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
<p>アルコール使用障害においてはいくつかの危険因子が確認されているが、これらの因子を有していてもアルコール使用障害を発症しない人が少なくない。脆弱性のある個人と健常対照者における初期の表現型の違いを特定することは、発症高リスク者の特定に役立つ可能性がある。血中アルコールレベル 80 mg%以上と定義した過飲により負の法的トラブルや健康転帰のリスクがもたらされることから、過飲は脆弱性の早期マーカーとなる可能性がある。本研究では、慎重にコントロールされた実験的パラダイムを使用し、アルコール症の家族歴、男性、衝動性、アルコールに対する反応性の低さなどのアルコール使用障害の危険因子により、個々のアルコール消費時における過飲率が予測されるという仮説を検討した。</p>		
<b>方法：</b>		
<p>研究デザインは横断研究であり、アルコールを静脈内に自己投与する実験室でのセッションを完了した機会飲酒若年者 159 名を対象とした。Cox 比例ハザードモデルを使用し、アルコール使用障害の危険因子が、過飲率と関連するかを検討した。</p>		
<b>結果：</b>		
<p>アルコール症の家族歴（ハザード比：1.04, 95%CI=1.02~1.07）、男性（ハザード比：1.74, 95%CI=1.03~2.93）、および衝動性の高い割合（ハザード比：1.17, 95%CI=1.00~1.37）が、高い過飲率と関連した。これらの3つの危険因子をすべて有する参加者は、低リスク群と比較して高率に過飲があった（ハザード比：5.27、95%CI=1.81~15.30）。</p>		
<b>結論：</b>		
<p>過飲はアルコール使用障害の脆弱性に関する早期指標である可能性があり、詳細に臨床的評価をする中で注意深く評価する必要がある。</p>		